

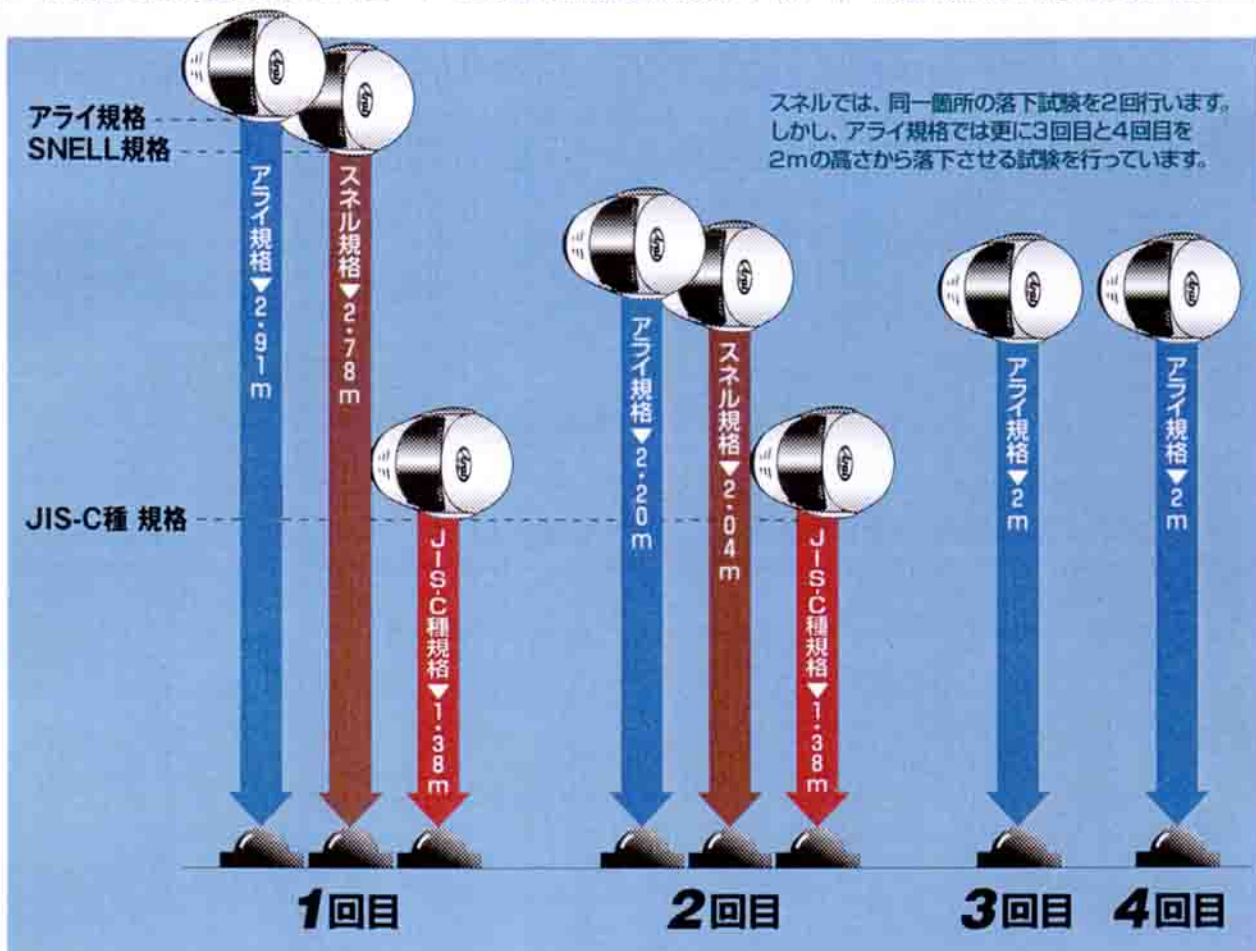
アライがお届けするスネル規格品とは。

最近、「スネルは、レース活動を前提とした規格だから、一般公道で使用するならば、JIS-C種で充分。スネルは高価になるし重たくもなるから無用。」という声を聞きました。果たしてそうでしょうか。確かに、レースは高い速度域で危険と隣り合わせの激しいスポーツです。それだけに、安全のためのルールは徹底され、コース上での危険回避区域（グリーン）やスポンジバリアなど安全対策にも配慮されています。と

ころが、一般公道では安全のルールが守られているとは言えず、予測のつかない対向車の動きや飛び出しなどは日常の出来事です。しかも、ガードレールや段差など、万一の際に、衝撃を一点に集中させてしまう恐れのある障害物がいっぱい、レースより安全と云えるでしょうか。対するヘルメットはというと、どんなヘルメットでもその安全性には限界があります。だから、少しでも高い安全性の製品を全てのユーザー様に

提供させていただくことがメーカーとしての良心とアライは考えます。

そこでアライは、ヘルメットの重要な役割である衝撃吸収性能について、もっとも厳しいとされるスネル規格よりも更に厳しい独自のアライ規格を設け、それにパスしたモデルのみを、アライのスネル規格品としてお届けしています。しかも、その製品の重量は、技術開発の積み重ねにより極めて軽量化に仕上げられています。ぜひ手



にとって確認してみてください。

衝撃吸収性試験とは、ヘルメットをかぶせて落下させた人頭模型が受ける衝撃を測定するもので、スネル、JIS-C種共、300Gを超える加速度が加わってはならない、とされてます。その中でもっとも厳しいとされるのは一般公道での路側帯の段差やガードレールの支柱などを想定した半球形アンビルによるテストです。これは非常に厳しいテストなので、JIS-C種での落下高

さは1.38mという人間の背丈より低いレベルに押さえられています。しかし、スネル規格ではその半球形アンビルに対してもJIS-C種の2倍以上の大きな衝撃でテストします。(スネルは、現在5.5kの人頭形を使用しているため2.78mとしています。JISの標準サイズの人頭形の重量でエネルギー換算した比較では3.06mとなります)。そして、アライでは、そのスネル規格よりも数パーセント厳しいアライ規格を独自に設定

しています。それは、半球形アンビルへ同一箇所を、一回目2.91m (3.20m) 二回目2.20m (2.40m) でテストした後、スネルにもない三回目、四回目を2.00m (2.20m) で落下させるテストです。(注：()内はJISの標準サイズの人頭形の重量でエネルギー換算した落下高さ) アライは、このアライ規格にパスするように作られた製品を、アライのスネル製品としてお届けしています。